

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン

実現したい都市のビジョン

**市民**  
市民が主体となった地域課題への取り組み

- ✓ 田原活性化対策本部会議への公募市民の参加
- ✓ 四條畷エリア会議による商店街の活性化

**市役所**  
全国最年少市長を中心にした市政の革新

- ✓ スマートフォンアプリケーションを活用した通報システム
- ✓ IoTを活用した登下校見守りサービス社会実験
- ✓ 公務員採用試験におけるオンライン面接の実施

**スマートシティ**  
新技術の活用

AI

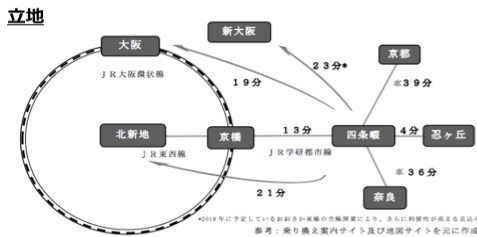
IoT

四條畷市では東市長を中心に、「市民中心のまちづくり」を掲げ、市民と協働したまちづくりを進めています。本市民が自ら地域課題に取り組むという意識は強く、特に東部地域では公募市民による自発的な取り組みが進められています。一方、市役所としても、スマートフォンアプリケーション等を活用した多様な取り組みを積極的に進めています。

今後もAI・IoTなどの最新技術を取り入れていき、市民が「住みたくなる・住み続けたい」まちを目指していきます。

市民中心のまちづくり

四條畷市の現状




四條畷市は大阪の北西部に位置し、大阪都心までは約15kmの大都市近郊です。金剛生駒起泉国定公園を挟み、西部と東部の2つの市街地があるのが特徴です。西部地域には80%の人口が集中し、車・電車でのアクセスが良好です。一方、東部地域は豊かな自然に恵まれた田園風景の残る既存集落と平成2年に街びらきをした田原台を中心とした新市街地により形成されています。特に今回、東部地域を対象にしたスマートシティ技術の導入を検討しています。

(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)


解決する課題のイメージ		課題の分類
<p><b>交通・モビリティ</b></p> <p>西部地域と東備地域をつなぐコミュニティバス</p> <p><b>運行経費 6千万 円/年</b> (1人当たりの運行経費 <b>近隣市の約4.3倍</b>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 行政への負担</li> <li>✓ 今後予想される運転手の不足</li> </ul> <p><b>持続可能な公共交通手段の確保</b></p>	<p><b>物流</b></p> <p>日用品の揃うスーパーマーケットがない</p> <p><b>買い物の不満度 77.5%</b> (その他項目平均38.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 子育て世代・高齢者世代の満足度低下</li> <li>✓ 食品ロスや人件費コストを抑える</li> </ul> <p><b>物流及び消費動向を事前把握</b></p>	<p>アカコシ</p>
<p><b>健康・医療</b></p> <p>徒歩圏内に駅がなく 移動手段は自家用車カバス</p> <p><b>運動量 低下の懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ニュータウンを中心に高齢化率の上昇</li> <li>✓ 高低差の大きい東部地域</li> </ul> <p><b>公園や図書館へ徒歩での移動を促す</b></p>	<p><b>行政サービス</b></p> <p>東部地域には田原支所があるが、</p> <p><b>行政サービスが不便</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市役所は西部地域にあり山越え必要</li> <li>✓ 自宅等での行政手続き・申請・納付</li> </ul> <p><b>市民・利用者の生産性向上</b></p>	

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

<p>交通・モビリティ</p> <p>① <b>コミュニティバスの自動運転</b> ② バス停から自宅まで <b>ラストワンマイルの自動運転車</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運転手不足により維持困難なコミュニティバスの自動運行化。</li> <li>✓ バス停が遠い高齢世帯へ、自宅までのワンマイルの移送サービス提供</li> </ul>	<p>物流</p> <p>山越えを意識した <b>効率的な輸送システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 通勤時には自転車で山を下り、帰宅はバスで（自転車は日中空いているバスにて自宅へ移送）</li> <li>✓ ニーズ即した店舗</li> </ul> 
<p>健康・医療</p> <p>地域活動をポイント化（仮想通貨化）し、相互利用や行政サービスで活用できる <b>ポイント付与制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域ボランティア活動（見守り活動や道路修繕活動など）やイベント参加などで発生したポイントが<b>相互利用できる仕組みの創出</b></li> </ul>	<p>行政サービス</p> <p><b>自宅ですべての行政手続きが完了する オンラインサービスの導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 行政の各種手続きや各種相談をオンライン化</li> <li>✓ 公共施設の空き状況から使用料納付までのシステム化</li> </ul>

具体的に導入したい  
**技術**

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

<p>解決の方向性</p> <p>市民</p> <p>市民が主体となった 地域課題への取り組み</p>  <p>「田原活性化対策本部会議」を経て、下記の地域資源を活かした取り組みが発生</p> <table border="1"> <tr> <td>農地・ 遊休農地</td> <td>緑・公園</td> </tr> <tr> <td>空家</td> <td>歴史</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域住民に「お出かけする機会」が増え健康寿命の延伸を図られ、地域で幸せに暮らす社会を構築する</li> </ul>	農地・ 遊休農地	緑・公園	空家	歴史	<p>市役所</p> <p><b>スマートシティ</b> 新技術の活用</p> <p>AI IoT BIGデータ Maas</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の生活行動（買い物、購買意欲、通院、生涯学習など）のビッグデータを活用し、住民ニーズに合った柔軟できめ細やかなサービスを利用できる社会を実現する。</li> <li>✓ 大きな構想ではなく、<b>足元の課題を解決できるような小さな技術の結集</b>によって、地域住民の暮らしの質を向上する。</li> <li>✓ 多くの取り組みが実装・試行される場としての<b>社会実験のフィールド</b>となるよう、地域住民との連携を密にとり、<b>市民と一緒に地域課題の解決に向かう。</b></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ これまでも多くの取り組みを実装してきた組織として、<b>具体的な取り組みには市内一丸となって望む</b></li> </ul>
農地・ 遊休農地	緑・公園				
空家	歴史				

(5) その他

平成29年11月から公募市民18人と一緒に地域の課題を調査し、地域活性化に向けた議論を行っている田原地域で先行してシステム導入を行いたい。  
参考：<http://www.city.shijonawate.lg.jp/gyosei/shijyonawateshinotorikumi/taharakasseika/1515734910500.html>

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
田原支所	笹田・塩見	(0743)78-0175	<a href="mailto:tawara@city.shijonawate.lg.jp">tawara@city.shijonawate.lg.jp</a>